

### 3. 地域のリスクを話し合う

自然現象は、今のところ抑止も抑制も出来ませんが、自然災害を抑制することは出来る可能性を持っています。しかし、それには限定的な手段しかなく、その一つが避難であり、土地利用とか耐震化というようなことになります。そして、基本的には相互の助け合いとか情報の共有というようなことが、特に少子高齢化や核家族という中で最も重要なことになってきています。このような社会の背景が進行していることは、実は高齢化していく中で強く感じることであって、若い世代ではなかなか理解しにくいことでもあると思います。地域での災害への対応を考えると、まずは地域環境の見方、情報の共有、改善すべきことというリスク管理が生活する上で不可避ですし、それには共助するためにも自助への知恵を得るということから、発災時に起動するための日ごろの世代間の付き合いが欠かせません。

自然災害の発生環境は、気候変動や災害列島の脆弱化、社会構造の変化などがあって、発生頻度や被害の規模が大きくなっているように思われますし、人生 100 年時代に入り、大きな災害に遭遇する確率も確実に高まっています。

社会の変化とは、価値観が多様化する中で地域とのかかわりが希薄になって、行政依存するようになりつつあるように感じます。つまり、災害が発生しても地域力が発揮されずに、大きな二次災害に発展することになりかねない状況です。

特に、高齢者は社会とのつながりが薄れると、体調を崩していても助けを求められず、早めの避難が出来ないなどで、最悪の場合には孤立死する恐れが出てきます。このようなことをなくすには、安心して暮らせるまちづくりを意識した助け合いが必要です。自分だけは大丈夫、これまで災害を経験していないからというだけでは、災害をかわすことはできません。

地域のコミュニティの大切さは、災害に限らず孤独・孤立していないということが重要で、日ごろからの気配りが大切になります。特に、自然災害は、突発的ですのですぐに適切な行動をするということが極めてむずかしく、そこは複数の人で対応することになります。かといって、単なる数がいれば何とかなるというものでもありません。つまり、情報を的確に判断することが出来る知識が必要ですので、日ごろから災害のことに触れ、地域のリスクを共有するようになっていく必要があります。特に、他地域で起きたことをわが身に置き換えて教材にすることが極めて大事です。防災ということでの訓練や講話も大事です。いかに日常的な所作として身につけていくには、欲張らずに、一気にではなく、日常化していくというミネラル的な栄養と考えてはいかがでしょうか。